

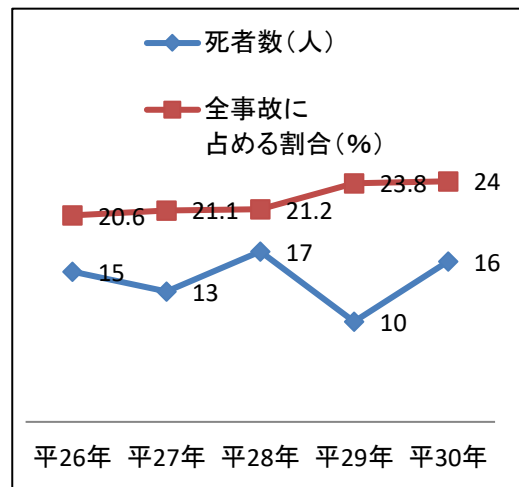
安全、便利、安心な社会へ

香川県立観音寺第一高等学校 1年 真鍋光稀

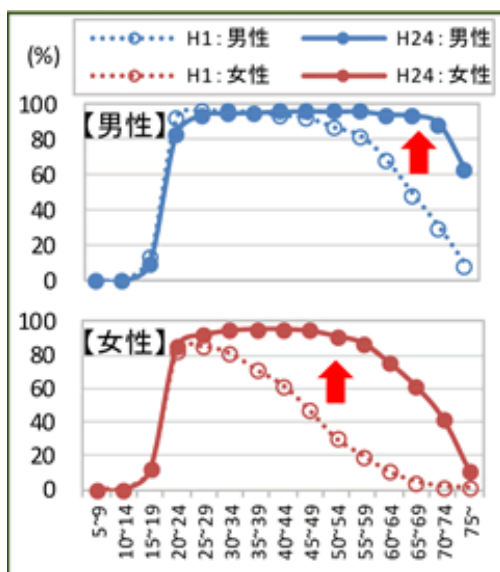
最近、私が気になるニュースは、増加傾向にある高齢者が関係している交通事故だ。特に、高齢者ドライバーによる交通事故は深刻である。我が家の祖父母も、普段から自動車をよく利用している。先日祖父は免許更新を終え、免許返納はしばらくしないようだ。僕は、そんな高齢者ドライバーを事故から守り安全に暮らすには、公共交通機関の充実がカギになると考える。

香川県の高齢者ドライバーの交通事故状況を見ると、総事故件数に占める割合は増加し続けていることが読み取れる。このような状況から、県は運転免許の自主返納をした65歳以上の高齢者には、バス・タクシー、スーパー、飲食店等の優遇店で割引等のサービスが受けられる「高齢者運転免許卒業生優遇制度」を設けることによって運転免許の自主返納を勧め、その後の高齢者を支援している。

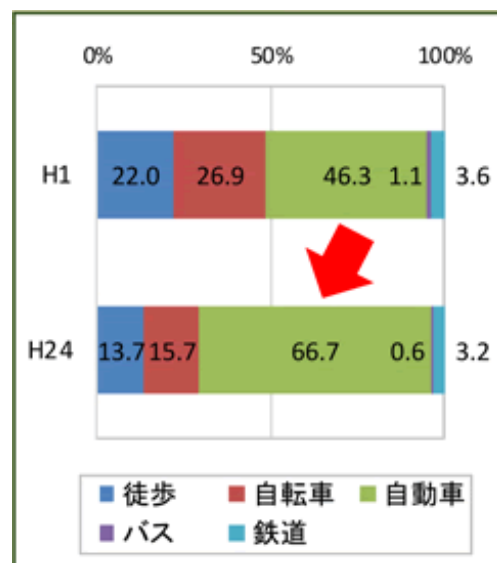
しかし、県内の運転免許保有率においては、高齢者の割合は増加しており、今後さらに高齢化が進むことから、高齢者の運転免許保有率は高くなる。また交通手段においても、自動車の利用者割合も増加しており、これは公共交通機関を利用する際、何か不便さがあるからではないかと推測できる。



図① 高齢者ドライバーの事故発生状況

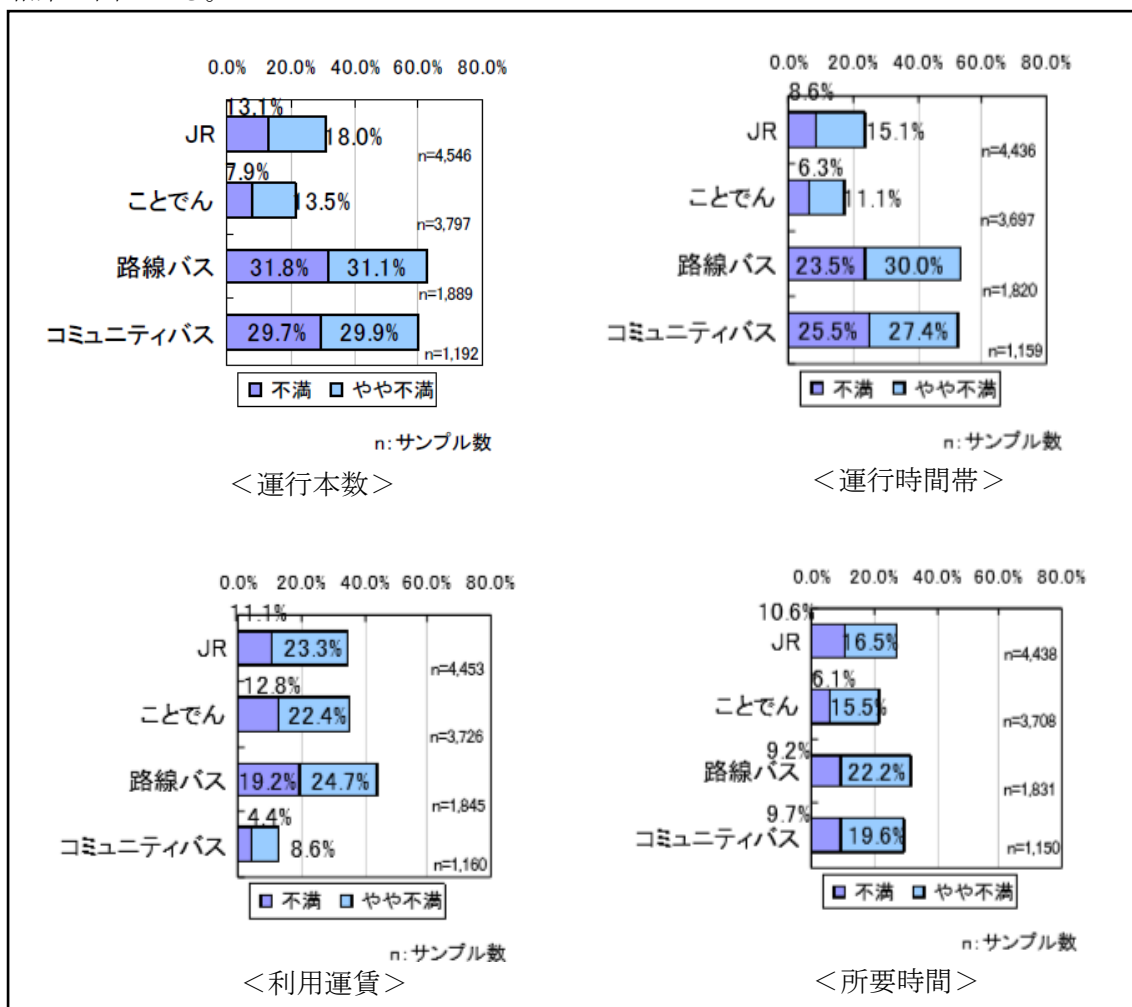


図② 自動車免許保有率



図③ 交通手段分担率

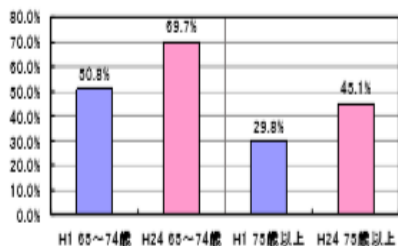
そこで、高齢者の公共交通機関に対する満足状況を項目別に見てみると、以下のような結果が出ている。



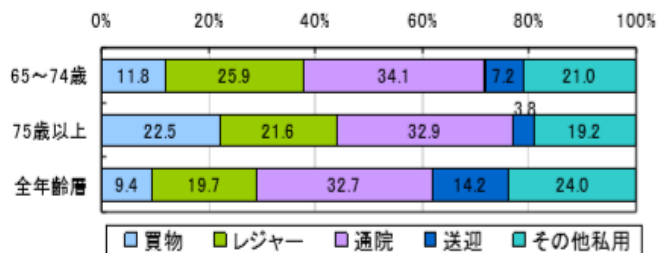
図④ 高齢者の公共交通満足状況

このデータから、運行本数、運行時間帯、利用運賃において、バスに対する不満の割合が高くなっていることが分かる。これらのことから、公共交通機関の利用が減少し、自動車による移動手段が増加していると考えられる。運転免許の返納をし、バス・タクシー、スーパー、飲食店等の優遇店で割引等のサービスが受けられるとしても、このままの状況では、高齢者は日々の生活に不便さを感じるのではないだろうか。

では、高齢者は自動車をどのような目的で使用しているのだろうか。高齢者の外出率は増加しており、中でも買い物、通院などといった使用目的での外出が多いことが分かる。しかし、その買い物や通院の目的地である大型スーパーや病院の近くには大抵バス停が設置されているのではないだろうか。それでも自動車で移動することが多いということは、公共交通機関の運行本数や運行時間帯などが利用しづらい状況にあるのではないかという推測と、図④のデータが合致する。



図⑤ 高齢者の外出率の変化



図⑥ 高齢者の使用目的内訳

以上のことから、高齢化が進み人口が減少している香川県において、今後高齢者が安全かつ便利、安心して暮らせるようになるために、①路線バス、コミュニティバスの運行状況の改善、②駅を中心に公共施設を集約、③観光客の増加の3点を挙げ、考察する。

① 路線バス、コミュニティバスの運行状況の改善

私の住んでいる地域にもコミュニティバスが運行しており、停留所もいくつか見たことはある。しかし、実際に利用したことはないし、利用するにも運賃や時刻、運行ルートなどをほとんど知らない。調べ方もはっきり言って分からない。このように私にとってなじみのないバスの利用を高齢者に勧めようがないし、利用が増えるとは思えない。

そこで、路線バス、コミュニティバスの運行状況の改善を提案したい。まず、パターン化されたダイヤに見直ししてはどうだろう。例えば、バス停Aは、7時から18時の間は00分か30分に発車時刻を統一するようにパターン化されたダイヤにすると、利用者も分かりやすく、特に高齢者でも覚えやすいと思う。また、このようにパターン化されるとほかのバスやJRなどの連携にもつながりやすいのではないだろうか。さらに、JRよりもバスのほうが、需要に応じた柔軟なダイヤ設定ができることやルートの変更、停留所設置が容易であるメリットを生かし、より運行状況の改善を目指すことが望ましいと考える。

② 駅を中心に各地域の公共施設を集約

JRを利用する人の不満度は、路線バス、コミュニティバスの利用者よりも少ない。すでに、駅の周辺には学校や図書館、市役所などの公共施設が多く、ある程度利用する人も多いと考えられる。このように人が集まりやすい場所に外出目的になる施設が集約されると、安定した利用者数が見込まれる。高齢者や自動車を利用できない人にとって、駅から徒歩圏内で様々な施設があると便利である。1日で複数の用事をこなすこともできるし、一人で移動もできるだろう。これを充実させるには、JRが利用しやすくなるよう、その他の交通機関も充実させる必要がある。

③ 観光客の増加

今後の香川県は、人口が減少しながら高齢化が進行する動向が発表されている。公共交

通機関の充実を図ったところで、人口が減少していく県内の人々だけに公共交通機関の利用を期待しても、それは難しいのがはっきりしている。そこで、県外からの観光客の増加にヒントがあると考えた。今年、瀬戸内国際芸術祭が開催されたり、高松に大型客船が寄港したりしたことで、多くの観光客が香川県を訪れた。こうしたイベントに加えて、香川県内の交通アクセスが良ければ、金刀比羅宮や屋島、丸亀城、レオマワールド、まんのう公園、銭形砂絵、父母ヶ浜などの観光地へも足を延ばすことが可能である。

このように、観光客が増えると公共交通機関の利用者も増え、運営側も赤字にならずに済み、より発展することができそうだ。しかし、先日豪華客船より高松港で下船し、県内を観光する外国からの旅行客が、「ここは、サービスが悪い。」「バスやタクシーが少なすぎる。」と、とても残念そうな顔で答えているニュースを目にし、やはり、今の交通状況を早く改善しなければならないと痛感した。せっかく一度足を運んでくれた観光客に、「もう一度来たい。」と思わせる公共交通機関でなければならない。また、観光客が利用しやすい公共交通機関であるなら、県内の人々にとっても利用しやすい公共交通機関になるはずだ。

このような3点の考えを基に、よりよい公共交通機関の実現に向けて、まず実際に利用する人からの要望を、しっかり把握することが不可欠である。地域差もあると思われるので、その背景も十分に調査しておく必要がある。さらに、観光客の増加を図るために、新幹線の導入も期待したい。観光地への所要時間が短いのは魅力である。四国における鉄道ネットワークの在り方も検討されている今日、四国の窓口として香川県が公共交通機関を充実させることで交通網が円滑になり、各県の観光地までのアクセスがよくなれば、利用者側も運営側も利益につながるのではないだろうか。私は、高齢者の交通事故の増加から、高齢者が安全に、便利に、安心して暮らせる社会を作るためにはどうすればいいかを考えた結果、公共交通機関の在り方を再検討することが必要と考えた。そうすることは、高齢者だけでなく、その他の人々にとっても安全で、便利で、安心な住みやすい社会になるということにつながっていくのだと思う。

■参考文献

出典

- ・香川県警察：交通事故統計資料（図①）
- ・香川県土木部都市計画課：高松広域都市圏都市交通マスタープラン（図②③④⑤⑥）
- ・四国旅客鉄道株式会社：四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ
- ・四国新幹線整備促進期成会：新幹線で四国を変えよう
- ・香川県ホームページ